

インフォメーションディスプレイ Vol.6



所在地:千葉県千葉市



株式会社
トヨタユーゼック
TAA関東会場
会場長
永島 良治氏

トヨタオートオークション (TAA) 様

1967年に日本初のオートオークションを開始。現在は全国に7会場を擁し、年間の出品台数は約57万台にもものぼる。また、1999年に専用回線によるオフィスからのオークション参加を開始。全会場をネットワークで結び、他会場のセリに参加できるようにするなど、常に中古車流通業界をリードしている。

他会場のオークション進行状況を
来場客に確実に知らせる掲示板として、
鮮やかな表示と大きさが役立っています。

PN-455
3台導入
(セリ会場)

トヨタオートオークション様の関東会場では、現車会場として約3,000台のセリへの参加はもちろん、ネットワークでつながれた同日開催の中部会場、東北会場と合わせ約7,000台のセリにも参加が可能です。そのため、朝の10時から夕方6時ごろまで休みなくセリが続く中、他会場のオークション進行状況の案内は非常に重要な情報として、来場客に確実に知らせる必要があります。そこで、トヨタオートオークション様では、広いオークション会場のどこからでも見やすい45型のサイズと、情報を鮮明に表現できる表示装置として、『PN-455』を導入されました。



一番下のスペースは東北会場がまもなく2レーンとなるために空けてある。

出品車の写真や車両データなどを表示している液晶プロジェクターによる画像と比較すると、『PN-455』の表示の鮮明さがわかる。

導入時の評価ポイント

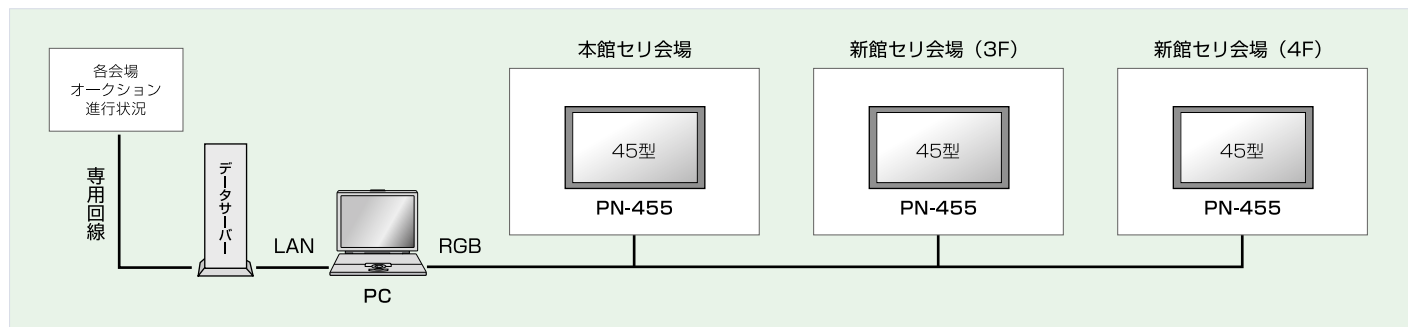
■ 広い会場のどこからでも見やすい
45型の大きさと視野角の広さ

■ 大切な情報を確実に案内できる
くっきり鮮やかな表示

■ 文字情報だけを表示し続けても
画面焼き付きが少ない

■ 会場の壁面への設置にふさわしい
薄型でシンプルなデザイン

■ システム概略図



導入の経緯

同時開催のオークションの数が増え、進行状況を
掲示するディスプレイに、物理的な大きさと鮮明さが必要となってきた。

トヨタオートオークション様では年々出品車が増え、それにともない各会場のオークションレーンも増加しています。会場長の永島氏は、「これまで関東会場では、他の2会場の進行状況をお知らせするのに、20インチの液晶モニターを使っていたが、2会場の2レーン化に伴い、案内情報の量が増え支障がでてきた。」という点を導入のきっかけとして挙げられました。表示装置の条件としてはまず、2倍の情報を表示させるために、サイズが大きくて情報がしっかり読み取れること。さらに、情報システム担当の内山氏が「大きさはもちろん、文字情報を長時間

表示させ続けるという使い方を考えると、液晶以外の方式では焼き付きの面などで少し不安があった。」とおっしゃるように、正確に伝えなくてはならない表示装置として、長い期間にわたって高品位に使用できるという面も重視され、『PN-455』を選択されました。

株式会社
トヨタユーゼック
情報システム部長
内山 厚一氏



関東会場の中でもいちばん広い本館セリ会場になると、最後列の席から『PN-455』の設置場所までかなりの距離があるが、出品番号がしっかり読み取れる。

導入後の感想

広い会場のどこからでも
進行状況を確認していただけるという、
大切な役割が十分に果たせています。

セリの進行状況をしっかり伝えるという導入のいちばんの目的である、「45型の大きさと鮮やかな表示で、広いセリ会場の後ろからでもくっきり見える」という点で高い評価を頂いています。また、薄型でシンプルな

デザインは、プロジェクター用のスクリーンの横に設置されていても違和感なく、会場の雰囲気にも溶け込んだ印象でした。

1台あたり平均約15秒というスピードで進むオークションの進行状況が刻々と表示されていく。



今後の展開予定

セリ参加者の利便性を考えて、
モニターの大型化が必要なところには
他の会場に於いても、積極的に導入を検討。

セリ会場のあるトヨタオートオークション関東会場様の建物内には、食堂やロビーなど至るところにオークション進行状況が案

内されています。今後も大型ディスプレイが必要なところに関しては、他の会場も含め導入を検討しておられます。



● お問い合わせは シャープ株式会社

情報通信事業本部 ディスプレイソリューション推進センター

〒639-1186 奈良県大和郡山市美濃庄町492番地 電話：(0743) 55-6373

2006年3月発行